

Faye, E. J.¹・小亀一弘²・高田 智³・川口栄男⁴・増田道夫²：
日本産新種紅藻 *Meristotheca imbricata* (カサナリトサカ, スギノリ目, ミリン科)

Etienne Jean Faye, Kazuhiro Kogame, Satoshi Shimada, Shigeo Kawaguchi and Michio Masuda: New red alga *Meristotheca imbricata* (Solieriaceae, Gigartinales) from Japan

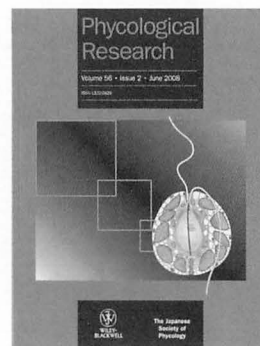
南日本から採集した標本に基づき、新種紅藻 *Meristotheca imbricata* Faye et Masuda (カサナリトサカ, スギノリ目, ミリン科) を記載した。本種は、最近まで詳細が不明であった *M. coacta* Okamura (キクトサカ) に長い間含まれていたようであるが、以下の特徴によりこの種と区別される：(i) 個々の藻体は一次葉状体とその末端分節の頂端または亜頂端から発出するいくつかの二次葉状体からなる；(ii) 個々の葉状体は、二分岐を繰り返す、縁辺が波打ったり縮れることのない線状の分節を呈し、肉質で、重なり合い、頻繁に網状に結合し、しばしば盛り上がる；(iii) 四分胞子嚢は、初め下部に位置する壁孔連絡により母細胞とつながり、その壁孔連絡の位置は四分胞子嚢が内側に成長することにより下部から側部に変わる；(iv) 造果枝は側生する1個の不稔細胞を時に生じる。(¹ 港湾空港技術研・沿岸環境, ² 北海道大・院・理, ³ 北海道大・創成科学, ⁴ 九州大・院・農)

山口晴代¹・Mona Hoppenrath²・瀧下清貴³・堀口健雄⁴：ラフィド藻綱の新種 *Haramonas pauciplastida* sp. nov. と SSU rRNA 遺伝子に基づく *Haramonas* 属藻類の分子系統解析

Haruyo Yamaguchi, Mona Hoppenrath, Kiyotaka Takishita and Takeo Horiguchi: *Haramonas pauciplastida* sp. nov. (Raphidophyceae, Heterokontophyta) and phylogenetic analyses of *Haramonas* species using small subunit ribosomal RNA gene sequences

カナダから採集されたラフィド藻綱の新種 *Haramonas*

pauciplastida sp. nov. を記載した。*Haramonas* 属はタイプ種である *Haramonas dimorpha* に基づいて記載され、現在までに2種のみが知られている。今回記載された新種は、細胞の後端に管状の陥入を持ち、大量の粘液を産生し、生活史の中で遊泳相と不動性相を持つことから *Haramonas* 属に所属する。本種の葉緑体は黄色がかかった緑色で *Haramonas viridis* Horiguchi et Hoppenrath のそれに類似している。しかしながら、本種は本属の他の種と比べて葉緑体の数が少なく、葉緑体の重なりが少ないという点で異なっている。微細構造学的には、本種と *H. viridis* はラメラを構成するチラコイド数、散在するピレノイド基質の存在、プラストグロビュル (plastoglobuli) の位置などの点で異なっていた。*Haramonas* 属3種から得られた SSU rRNA 遺伝子に基づく分子系統解析を行った結果、これらがお互いに遺伝的に識別でき、またラフィド藻綱の中で明瞭なクレードを形成することが示された。この結果は、*Haramonas* 属の特徴的な形質は共有派生形質であるという考えを支持している。また、本研究は *Haramonas* 属藻類から得られた初めての分子データの報告である。(¹ 筑波大・院・生命環境, ² Department of Botany, University of British Columbia, ³ 海洋研究開発機構, ⁴ 北大・院・理)



英文誌 56 巻 2 号表紙

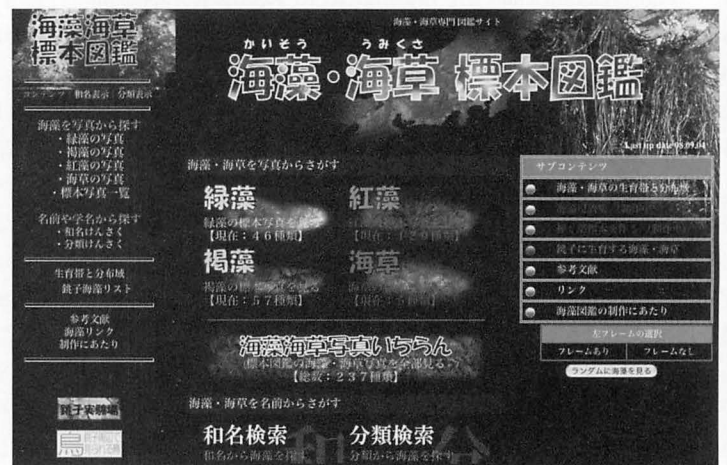
Haramonas pauciplastida (ラフィド藻) (描画：山口晴代・中山 剛)。

(長里)



ホームページ「海藻海草標本図鑑」

千葉大学海洋バイオシステム研究センター銚子実験場の技術職員羽賀秀樹氏が作成、運営しているインターネット海藻図鑑「海藻海草標本図鑑」。藻類学会会員の芹澤如比古、和世夫妻が制作スタッフとして協力するとともに多くの専門家が種の同定などに携わっている。図鑑の名に違わず、海草5種、アオサ藻(緑藻)46種、褐藻57種、紅藻129種の合計237種が掲載され、現在も更新中。掲載海藻は銚子産にとどまらず千葉県、神奈川県、茨城県、福島県、宮城県、新潟県、沖縄など全国的に展開中。このサイトには、これまでの図鑑にはほとんど載せられなかった切片写真が標本写真と共に載っている。海藻の多くは切片を作製しなければ同定が難しく、本サイトのお世話になった専門家や学生は数知れない。本サイトは、一般の方から専門家まで幅広く利用できる古今例を見ない海藻図鑑である。“最東端の海の花藻仙人”と称される羽賀氏の海藻にかける熱い情熱を感じて欲しい。(鈴木雅大)



<http://www-es.s.chiba-u.ac.jp/kominato/choshi/algae/>